

月例経済報告の変遷

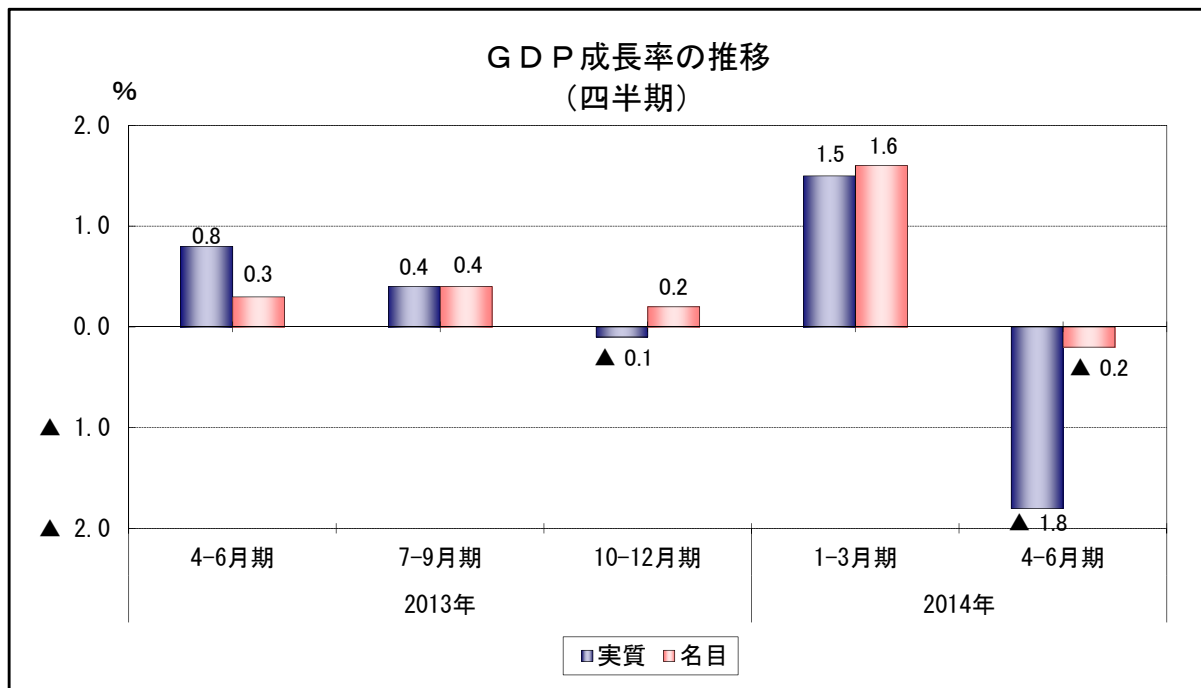
	平成26年	
	9月	10月
基 調 判 断	<p>景気は、このところ<u>一部に弱さ</u>みられるが、緩やかな回復基調が続いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人消費は、持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる。 ・設備投資は、増加傾向にあるものの、このところ弱い動きもみられる。 ・輸出は、横ばいとなっている。 ・生産は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、<u>弱含んでいる</u>。 ・企業収益は、改善に足踏みがみられる。 ・企業の業況判断は、慎重となっているものの、<u>改善の兆しもみられる</u>。 ・雇用情勢は、着実に改善している。 ・消費者物価は、<u>緩やかに上昇している</u>。 <p>先行きについては、当面、<u>一部に弱さ</u>が残るものの、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、<u>緩やかに回復していくことが期待される</u>。ただし、駆け込み需要の反動の長期化や海外景気の下振れなど、我が国の景気を下押しするリスクに留意する必要がある。</p>	<p>景気は、このところ弱さがみられるが、緩やかな回復基調が続いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人消費は、持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる。 ・設備投資は、増加傾向にあるものの、このところ弱い動きもみられる。 ・輸出は、横ばいとなっている。 ・生産は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、<u>このところ減少している</u>。 ・企業収益は、改善に足踏みがみられる。 ・企業の業況判断は、慎重となっているものの、<u>大企業製造業ではやや改善している</u>。 ・雇用情勢は、着実に改善している。 ・消費者物価は、<u>このところ上昇テンポが鈍化している</u>。 <p>先行きについては、当面、一部に弱さが残るものの、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、<u>緩やかに回復していくことが期待される</u>。ただし、駆け込み需要の反動の長期化や海外景気の下振れなど、我が国の景気を下押しするリスクに留意する必要がある。</p>
個 人 消 費	持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる。	持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる。
設 備 投 資	増加傾向にあるものの、このところ弱い動きもみられる。	増加傾向にあるものの、このところ弱い動きもみられる。
住 宅 建 設	<u>このところ減少テンポが緩やかになっている</u> 。	<u>緩やかに減少している</u> 。
公 共 投 資	総じて堅調に推移している。	総じて堅調に推移している。
輸 出 入	輸出は、横ばいとなっている。 輸入は、このところ弱含んでいる。	輸出は、横ばいとなっている。 輸入は、このところ弱含んでいる。
国 際 収 支	貿易・サービス収支の赤字は、このところ横ばいとなっている。	貿易・サービス収支の赤字は、このところ横ばいとなっている。
鉱 工 業 生産・出荷・在庫	生産は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、 <u>弱含んでいる</u> 。	生産は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、 <u>このところ減少している</u> 。
企 業 の 向	企業収益は、改善に足踏みがみられる。 企業の業況判断は、慎重となっているものの、 <u>改善の兆しもみられる</u> 。	企業収益は、改善に足踏みがみられる。 企業の業況判断は、慎重となっているものの、 <u>大企業製造業ではやや改善している</u> 。
倒 産 件 数	おおむね横ばいとなっている。	おおむね横ばいとなっている。
雇 用 情 勢	雇用情勢は、着実に改善している。 完全失業率は、7月は前月比0.1%ポイント上昇し、3.8%となった。	雇用情勢は、着実に改善している。 完全失業率は、8月は前月比0.3%ポイント低下し、3.5%となった。
政 策 態 度	<p>政府は、大震災からの復興を加速させるとともに、デフレからの脱却を確実なものとし、持続的成長の実現に全力で取り組む。このため、「経済財政運営と改革の基本方針2014」に基づき経済財政運営を進めるとともに、「『日本再興戦略』改訂2014」を着実に実行する。引き続き、<u>経済の好循環の実現に向け、「好循環実現のための経済政策」を含めた経済政策パッケージを着実に実行するとともに、平成26年度予算の早期実施に努める</u>。</p> <p>日本銀行には、2%の物価安定目標をできるだけ早期に実現することを期待する。</p>	<p>政府は、大震災からの復興を加速させるとともに、デフレからの脱却を確実なものとし、持続的成長の実現に全力で取り組む。このため、「経済財政運営と改革の基本方針2014」及び「『日本再興戦略』改訂2014」を着実に実行する。また、<u>産業競争力会議や、政労使会議での議論などを</u>通じ、<u>好調な企業収益を、設備投資の増加や賃上げ・雇用環境の更なる改善等につなげる</u>ことにより、<u>地域経済も含めた経済の好循環の更なる拡大を実現する</u>。</p> <p>日本銀行には、2%の物価安定目標をできるだけ早期に実現することを期待する。</p>

(備考)下線部は、先月から変更した部分。

○2014(平成26)年4~6月期四半期別GDP速報(2次速報値)

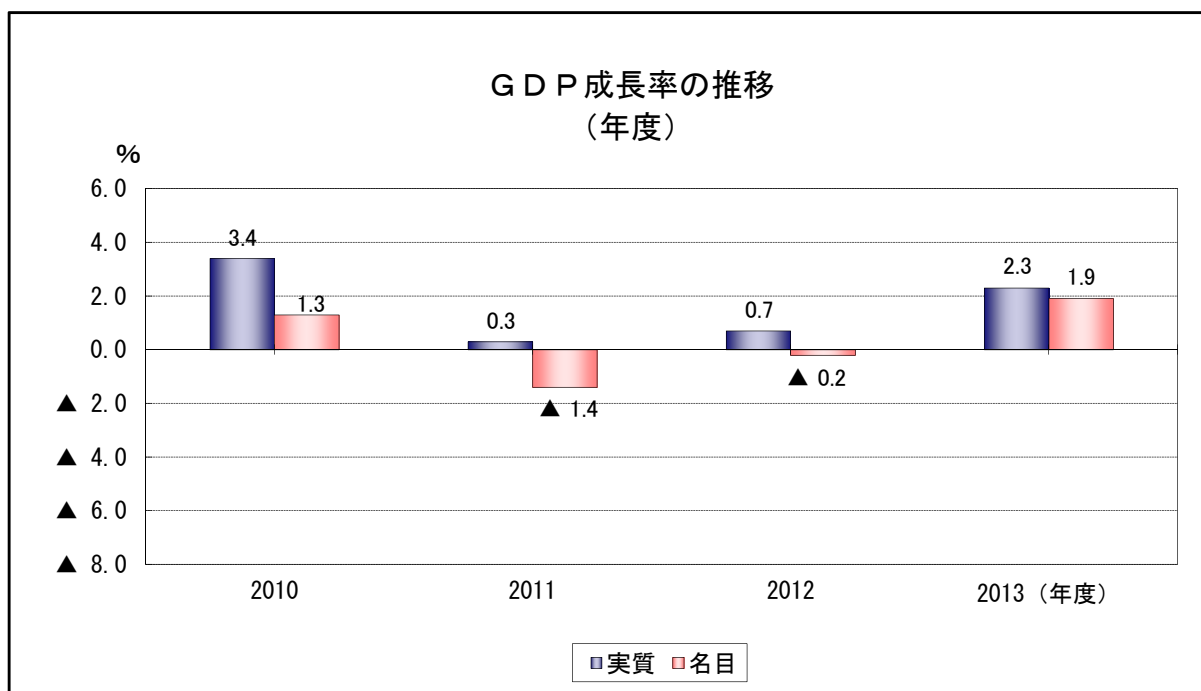
・GDP成長率(季節調整済前期比)

2014年4~6月期の実質GDP(国内総生産・2005暦年連鎖価格)の成長率は、▲1.8%(年率▲7.1%)となった。また、名目GDPの成長率は、▲0.2%(年率▲0.7%)となった。



・2013年度のGDP

2013年度の実質GDP成長率は2.3%、名目GDP成長率は1.9%となった。



○平成26年度の政府経済見通し（主要経済指標）

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	対前年度比増減率					
	(実績)	(実績見込み)	(見通し)	平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	兆円 (名目)	兆円程度 (名目)	兆円程度 (名目)	% (名目)	% (実質)	%程度 (名目)	%程度 (実質)	%程度 (名目)	%程度 (実質)
国内総生産	472.6	484.2	500.4	▲ 0.2	0.7	2.5	2.6	3.3	1.4
民間最終消費支出	288.1	295.9	304.2	0.6	1.5	2.7	2.5	2.8	0.4
民間住宅	14.0	15.5	15.4	4.7	5.3	10.1	7.3	▲ 0.4	▲ 3.2
民間企業設備	64.6	65.6	68.8	0.5	0.7	1.4	0.4	5.0	4.4
民間在庫品増加 ()内は寄与度	▲ 1.9	▲ 3.0	▲ 1.8	(▲ 0.1)	(▲ 0.1)	(▲ 0.2)	(▲ 0.2)	(0.2)	(0.2)
政府支出	118.1	123.4	126.7	0.5	1.4	4.5	4.3	2.6	0.7
政府最終消費支出	97.1	98.7	101.7	0.5	1.5	1.6	1.7	3.1	1.5
公的固定資本形成	21.0	24.8	25.0	1.1	1.3	17.9	16.1	0.9	▲ 2.3
財貨・サービスの輸出	70.4	79.4	84.8	▲ 0.7	▲ 1.2	12.7	4.0	6.8	5.4
(控除)財貨・サービスの輸入	80.8	92.5	97.7	4.5	3.8	14.5	4.2	5.7	3.5
内需寄与度				0.6	1.5	3.0	2.7	3.3	1.2
民需寄与度				0.5	1.1	1.9	1.6	2.6	1.0
公需寄与度				0.1	0.3	1.1	1.1	0.7	0.2
外需寄与度				▲ 0.8	▲ 0.8	▲ 0.6	▲ 0.1	0.0	0.2
国民所得	351.1	362.9	370.5	0.6		3.4		2.1	
雇用者報酬	246.0	248.6	253.6	0.1		1.1		2.0	
財産所得	21.5	23.6	24.4	3.8		9.7		3.3	
企業所得	83.6	90.7	92.5	1.1		8.5		1.9	
労働・雇用	万人	万人程度	万人程度		%		%程度		%程度
労働力人口	6,555	6,567	6,567		▲ 0.3		0.2		0.0
就業者数	6,275	6,309	6,323		▲ 0.1		0.5		0.2
雇用者数	5,511	5,563	5,592		0.2		0.9		0.5
完全失業率	%	%程度	%程度						
	4.3	3.9	3.7						
生産	%	%程度	%程度						
鉱工業生産指数・増減率	▲ 2.9	2.4	3.3						
物価	%	%程度	%程度						
国内企業物価指数・変化率	▲ 1.1	1.9	3.9						
消費者物価指数・変化率	▲ 0.3	0.7	3.2						
GDPデフレーター・変化率	▲ 0.9	▲ 0.1	1.9						
国際収支	兆円	兆円程度	兆円程度		%		%程度		%程度
貿易・サービス収支	▲ 9.4	▲ 11.6	▲ 11.5						
貿易収支	▲ 6.9	▲ 10.1	▲ 10.0						
輸出	61.6	68.7	73.6		▲ 1.7		11.6		7.2
輸入	68.5	78.8	83.6		3.6		15.1		6.1
経常収支	4.4	4.2	4.7						
経常収支対名目GDP比	%	%程度	%程度						
	0.9	0.9	0.9						

- (注1) 消費者物価指数は総合である。
(注2) 消費税率上げの影響を機械的に除いて試算すると、平成26年度の消費者物価指数・変化率は1.2%程度、GDPデフレーター・変化率は0.5%程度と見込まれる。
(注3) 平成24年度(実績)の労働・雇用の対前年度比増減率は、岩手県、宮城県及び福島県についての補完的推計を含む平成23年度の全国値からの変化率である。
(注4) 世界GDP(日本を除く)、円相場、原油輸入価格については、以下の前提を置いている。なお、これらは、作業のための想定であって、政府としての予測あるいは見通しを示すものではない。

	平成24年度 (実績)	平成25年度	平成26年度
世界GDP(日本を除く)の実質成長率(%)	2.8	2.6	3.3
円相場(円/ドル)	83.1	99.2	100.0
原油輸入価格(ドル/バレル)	113.4	109.0	110.1

(備考)

- 世界GDP(日本を除く)の実質成長率は、国際機関等の経済見通しを基に算出。
- 円相場は、平成25年11月1日～平成25年11月29日の期間の平均値(100.0円/ドル)が平成25年12月2日以後一定と想定。
- 原油輸入価格は、スポット価格の前月平均値に運賃、保険料を付加した値。スポット価格は、平成25年11月1日～平成25年11月29日の期間の平均値が平成25年12月2日以後一定と想定。平成25年12月以降の原油輸入価格(110.1ドル/バレル)で一定と想定。

※ 本経済見通しに当たっては、「2.平成26年度の経済財政運営の基本的態度」に記載された経済財政運営を前提としている。

※ 我が国経済は民間活動がその主体をなすものであること、また、特に国際環境の変化には予見しがたい要素が多いことを鑑み、上記の諸係数はある程度幅を持って考えられるべきものである。

資料：内閣府「平成26年度の経済見通しと経済財政運営の基本的態度（平成26年1月24日閣議決定）」

○ 海外主要国の経済成長率の見通し

○ IMFの世界経済見通し（平成26年10月7日発表）

	2014年予測	2015年予測
日本	0.9	0.8
米国	2.2	3.1
ユーロ圏	0.8	1.3
中国	7.4	7.1
世界計	3.3	3.8

注) 単位：％、実質GDP成長率の前年比。

○ OECDの世界経済見通し（平成26年5月6日発表）

	2013年予測	2014年予測	2015年予測
日本	1.5	1.2	1.2
アメリカ	1.9	2.6	3.5
ユーロ圏	▲ 0.4	1.2	1.7
加盟国計	1.3	2.2	2.8

注) 単位：％、実質GDP成長率の前年比

○ アジア開発銀行のアジア大洋州主要国・地域別の経済成長見通し

（平成26年9月25日発表）

	2014年予測	2015年予測
地域全体	6.2	6.4
中国	7.5	7.4
香港	2.5	3.2
韓国	3.7	3.8
台湾	3.4	3.3
インド	5.5	6.3
インドネシア	5.3	5.8
マレーシア	5.7	5.3
フィリピン	6.2	6.4
シンガポール	3.5	3.9
タイ	1.6	4.5
ベトナム	5.5	5.7

注) 単位：％、実質GDPの前年比伸び率

○ 日銀の経済見通し

（平成26年7月15日公表「当面の金融政策運営について」）

—対前年度比、％。なお、<>内は政策委員見通しの中央値。

	2014年度		2015年度		2016年度	
		4月時点		4月時点		4月時点
実質GDP 大勢見通し	+0.6～+1.3	+0.8～+1.3	+1.2～+1.6	+1.2～+1.5	+1.0～+1.5	+1.0～+1.5
	< +1.0 >	< +1.1 >	< +1.5 >	< +1.5 >	< +1.3 >	< +1.3 >
〃 全員見通し	+0.5～+1.3	+0.5～+1.4	+0.9～+1.7	+1.0～+1.8	+0.7～+1.6	+0.8～+1.6

注1) 「大勢見通し」は、各政策委員が最も蓋然性の高いと考える見通しの数値について、最大値と最小値を1個ずつ除いて、幅で示したものであり、その幅は、予測誤差などを踏まえた見通しの上限・下限を意味しない。

2) 各政策委員は、既に決定した政策を前提として、また先行きの政策運営については市場の織り込みを参考にして、上記の見通しを作成している。

3) 今回の見通しでは、消費税率について、既に実施済みの8%への引き上げに加え、2015年10月に10%に引き上げられることを織り込んでいる。